

音声リライト支援ツールの研究開発

ツール開発成功。実証実験実現。

【平成20年度助成事業】

研究開発事業の概要と背景

視覚障害者のICTリテラシは向上はしているが、現状では按摩や針、お灸、指圧といった領域の就業が中心であり、ICTリテラシのある視覚障害者は就業機会に恵まれない状況にある。

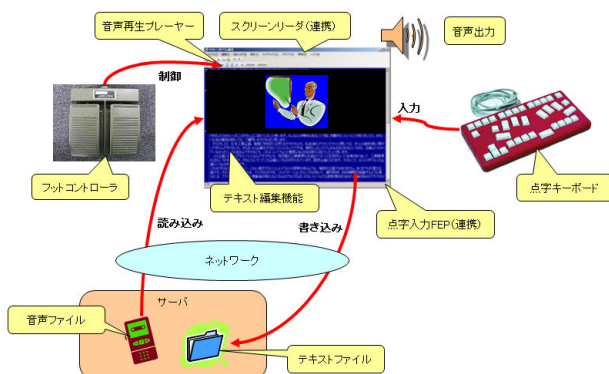
そのような状況の中、会議録音情報を文字化する音声書き起こしの作業は、視覚障害者が実施している作業の一つであるが、その際に用いるテープ再生装置は、通常のテープ再生装置では視覚障害者にとっては操作性に課題がある。そのため、多くのケースにおいては、高額な専用設備を必要とするため、専用設備を有する施設に出向いて業務を実施している。また、視覚障がい具合によっては、作業者の施設までの移動が困難な場合、雇用機会をあきらめざるを得ない状況も想定される。

そこで、今回の研究開発では、H19年に行った「視覚障害者向け音声データ書き起こし業務支援アプリケーションの研究開発」の次ステップとして、ネットワーク型のテレワークアウトソーシングシステムと作業者の作業性を向上させるためのツールとし、かつ、作業発注側が懸念する情報セキュリティに配慮した安全・安心な情報伝達の仕組みを実現するツール開発を行う。

リライトサポーターの開発

リライト業務ソフト「リライトサポーター」の機能

- オーディオプレーヤーとテキストエディタを一体化
 - 操作性の向上
 - 新機能の実現
- オーディオ時刻とエディタカーソルの記憶・呼び出し「チャプデックス」機能
- インターネット経由で再生、編集、納品
 - 音声ファイルは自動で本社サーバに安全に保管
 - 書き起し文章も自動で本社サーバに安全に保管



事業化の状況

製品化へ向けての商品開発は市場を見据えた上で進める。

現在の経済状況を考慮し、開発時期を検討している。

今後の展開

音声リライト支援ツールの商品化において、視覚障害者に商品を提供させて頂くためには、本助成金事業にて開発した研究開発・試作品レベルから、製品レベルへ引き上げる必要があり、そのためには実証実験の結果から得られた課題(レスポンス改善、編集機能強化、文字表示拡大機能など)を解決するための追加開発が必要な状態である。

商品化へ向け追加開発を行うには、景気の回復や市場の動向を見据えた上で慎重に進める必要があり、現在の経済状況を考慮し、開発再開の時期を見定めている。

事業実施データ

株式会社ユビテック(東京都)